

平成 29 年度

これからのまちづくりのための
市民意識調査報告書

平成 30 年 3 月

燕市企画財政部企画財政課

目 次

	頁
1. 調査の概要	1
(1) 目的	1
(2) 調査方法	1
(3) 回収結果	1
(4) 報告書の見方	1
2. 集計結果	2
問1 (ア) 性別	2
(イ) 年齢	2
(ウ) お住まいの地区 (小学校区)	3
(エ) 居住形態	3
(オ) 職業	4
通勤・通学先	4
(カ) 燕市居住年数	5
問2 住みやすさ	5
問3 居住意向	6
市外に引っ越ししたい理由	7
問4 まちづくりに対する満足度と重要度	8
問5 将来の悩みや不安	10
問6 特色や資源、魅力や自慢できること	11
問7 まちづくり基本条例の認知度	13
問8 自治会や各種団体への参加	13
問9 参加したことがある団体の活動	14
問10 参加したことがない理由	14
問11 参加できる団体の活動	15
問12 利用している情報媒体	16

1. 調査の概要

(1) 目的

本調査は、「燕市総合計画」の進行管理に当たり、市民が日頃まちづくりや身近な生活環境についてどのように考えているのかを把握するとともに、各施策の満足度、重要度を明らかにすることにより、施策の優先順位の検討等に資することを目的とする。

(2) 調査方法

本調査の方法は、下記のとおりである。

項目	内容
調査地域	燕市全域
調査対象者	燕市内在住の満 18 歳以上の男女個人 (平成 30 年 1 月現在)
標本数	2,000 人
抽出方法	住民基本台帳に基づく無作為抽出
配付・回収方法	郵送配付、郵送回収
配付・回収期間	平成 30 年 2 月 16 日 (金) ~平成 30 年 2 月 26 日 (月)

(3) 回収結果

有効回収数：779 票 (有効回収率 38.9%)

(4) 報告書の見方

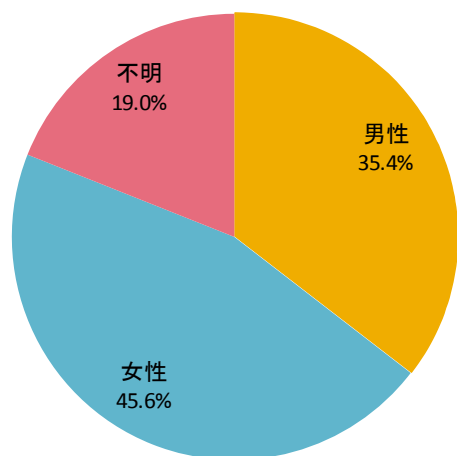
- ①回答割合は、小数点第 2 位を四捨五入しているため、数値の合計が 100%にならない場合がある。
- ②複数回答の設問の場合、全ての回答割合を合計すると 100%を超える場合がある。
- ③基数となるべき実数 (N) は、特に記述のない限り、有効回収数である。
- ④本文や図表中の選択肢表記は、語句を短縮・簡略化している場合がある。

2. 集計結果

問1 あなたご自身についておたずねします。

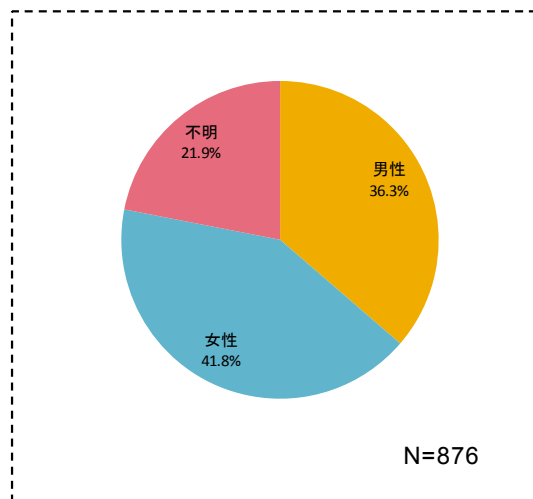
(ア) あなたの性別は

性別は、「男性」が35.4%、「女性」が45.6%となっている。



N=779

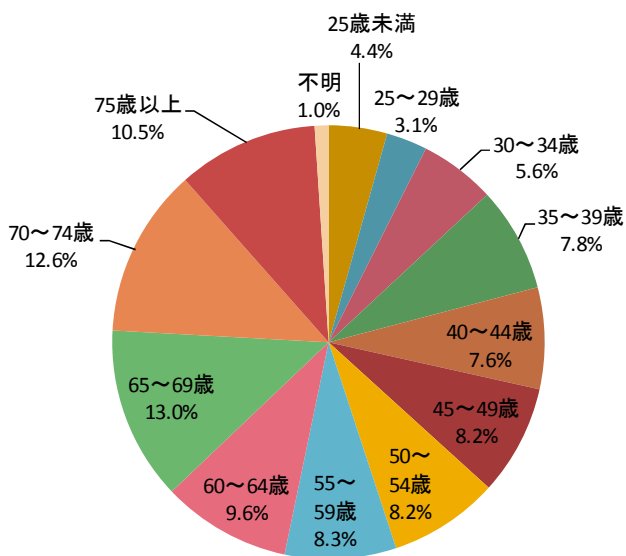
【前回の市民意識調査(平成29年2月)】



N=876

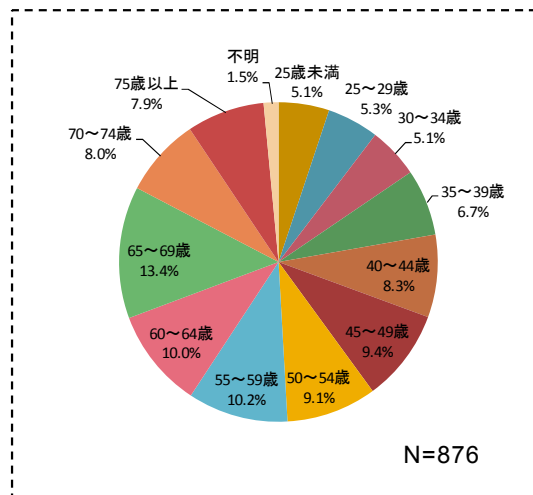
(イ) あなたの年齢は

年齢別の割合は、「65～69歳」が最も多く13.0%、次いで「70～74歳」が12.6%、「60～64歳」が9.6%となっている。昨年と比較すると、30歳代と70歳以上の回答が増加した。



N=779

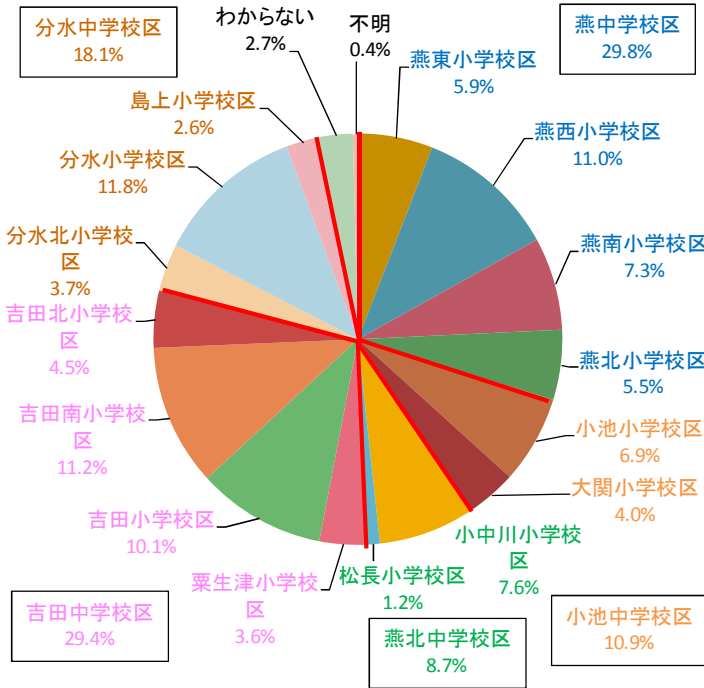
【前回の市民意識調査(平成29年2月)】



N=876

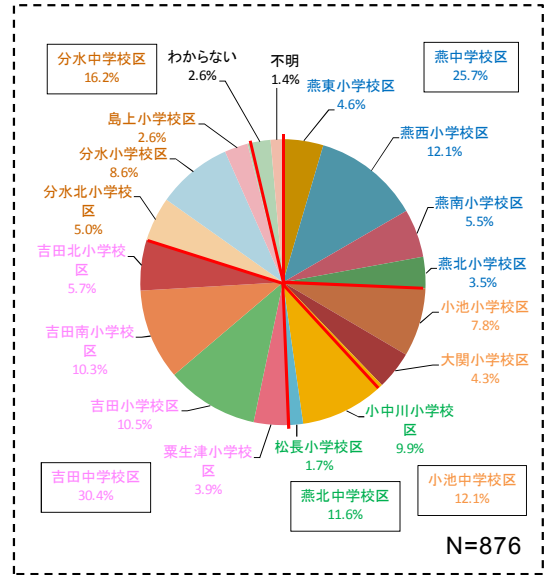
(ウ) あなたのお住まいの地区（小学校区）は

居住地域別では、「分水小学校区」が最も多く 11.8%、次いで「吉田南小学校区」が 11.2%、「燕西小学校区」が 11.0%となっている。



N=779

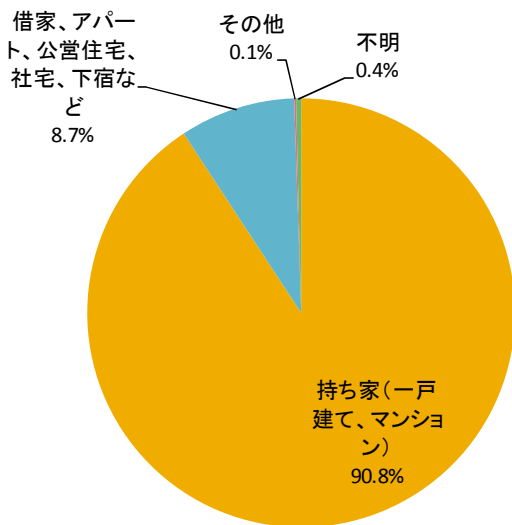
【前回の市民意識調査（平成 29 年 2 月）】



N=876

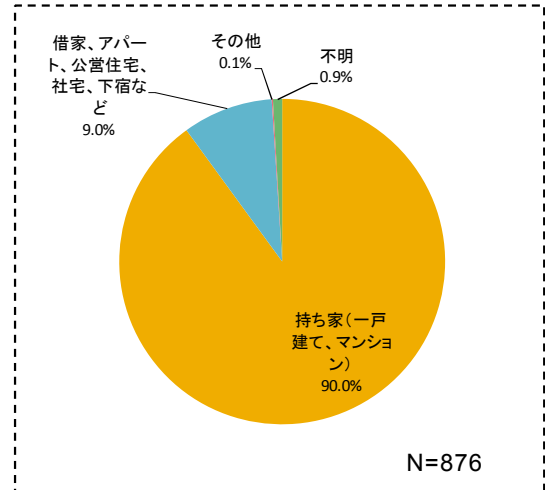
(エ) あなたのお住まいの形態は

居住形態は、「持ち家（一戸建て、マンション）」が 90.8%、「借家、アパート、公営住宅、社宅、下宿など」が 8.7%となっている。



N=779

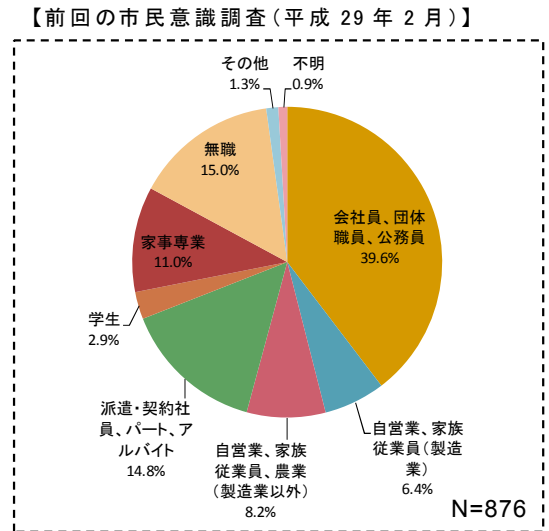
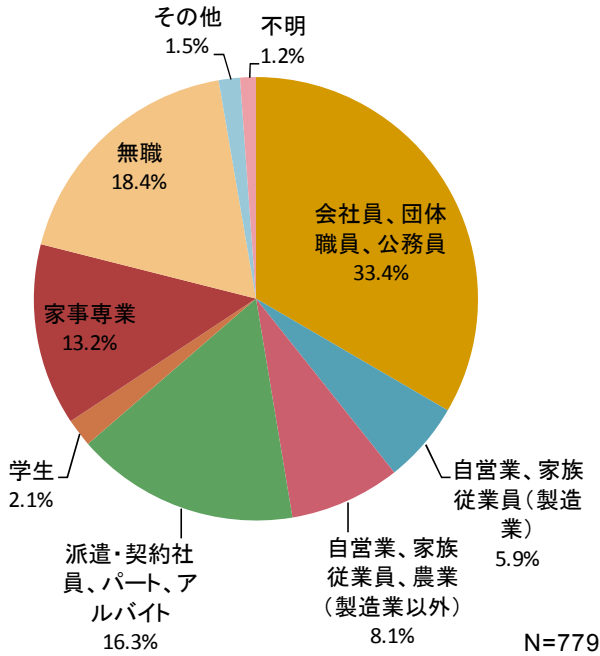
【前回の市民意識調査（平成 29 年 2 月）】



N=876

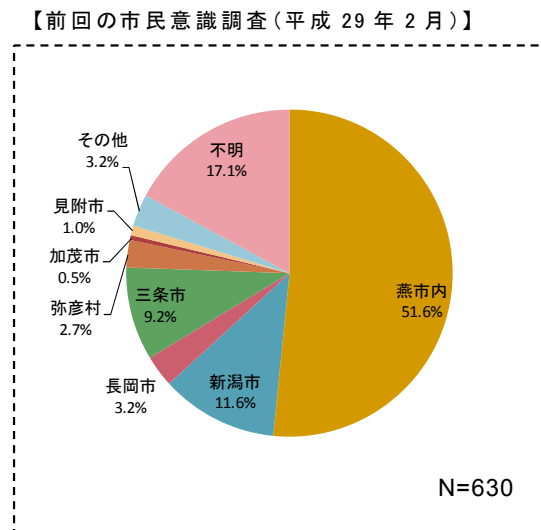
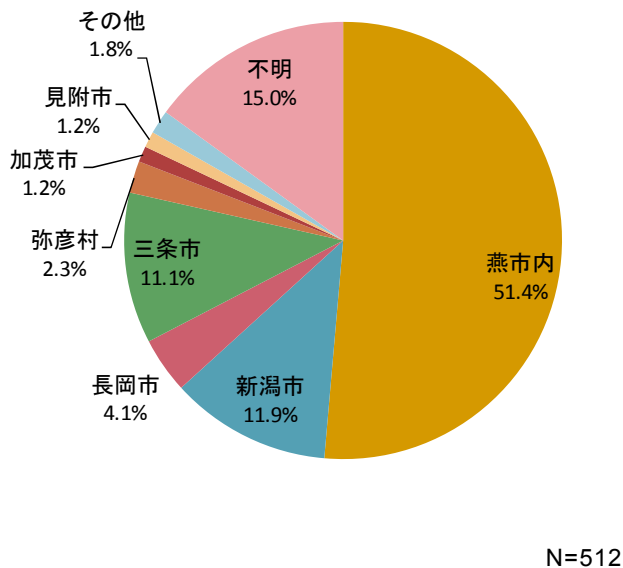
(オ) あなたのご職業は

職業は、「会社員、団体職員、公務員」が最も多く 33.4%、次いで「無職」が 18.4%、「派遣・契約社員、パート、アルバイト」が 16.3%となっている。



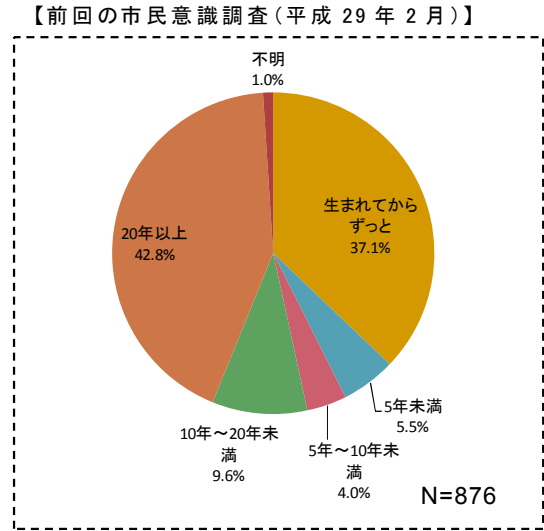
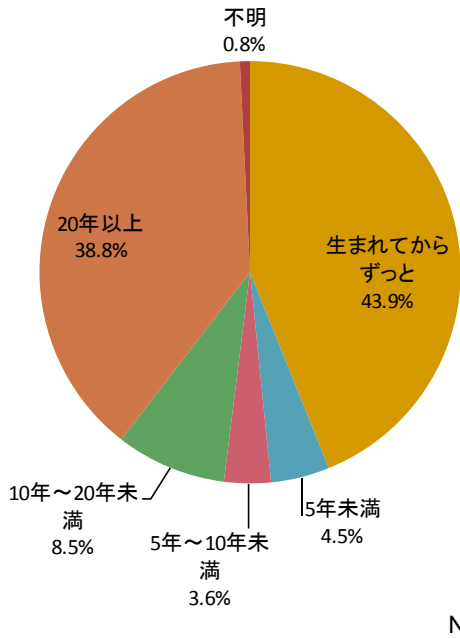
通勤・通学先は

通勤・通学先は、「燕市内」が最も多く 51.4%、次いで「新潟市」が 11.9%、「三条市」が 11.1%、「長岡市」が 4.1%となっている。



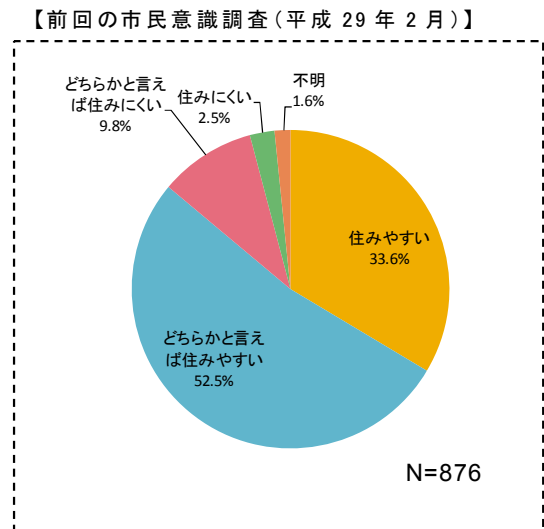
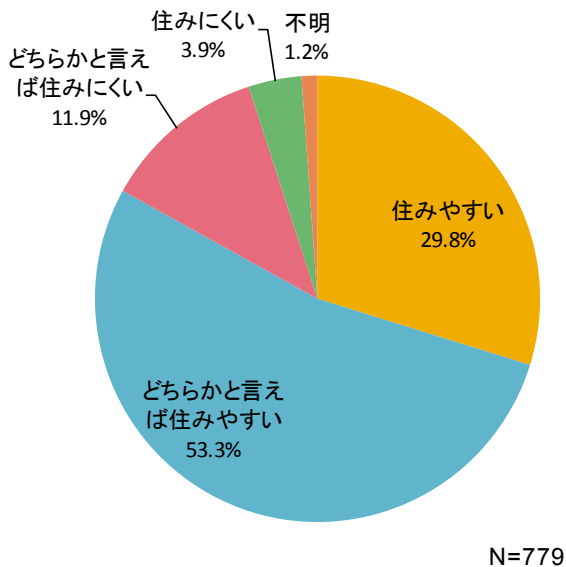
(カ) あなたが燕市に住みはじめてからの年数は

居住年数は、「生まれてからずっと」が最も多く 43.9%、次いで「20年以上」が 38.8% となっている。この2つの選択肢で約8割を占めている。



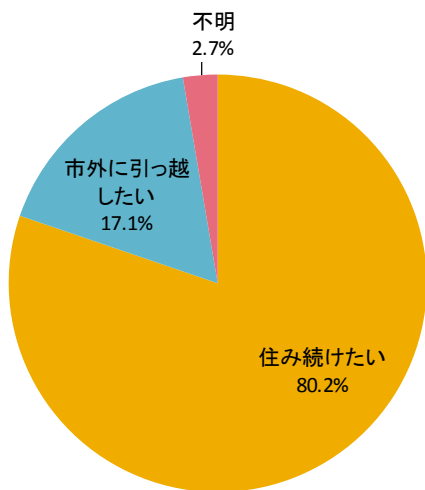
問2 あなたにとって、燕市は住みやすいまちですか。

燕市の住みやすさは、「住みやすい」が 29.8%、「どちらかと言えば住みやすい」が 53.3%、「どちらかと言えば住みにくい」が 11.9%、「住みにくい」が 3.9%となっており、住みやすいと感じている方が8割以上となっている。



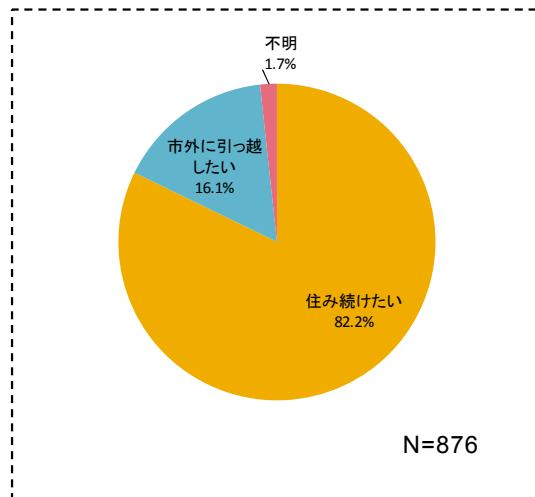
問3 あなたは、今後も燕市に住み続けたいですか。

居住意向は、「住み続けたい」が80.2%、「市外に引っ越したい」が17.1%となっている。



N=779

【前回の市民意識調査(平成29年2月)】



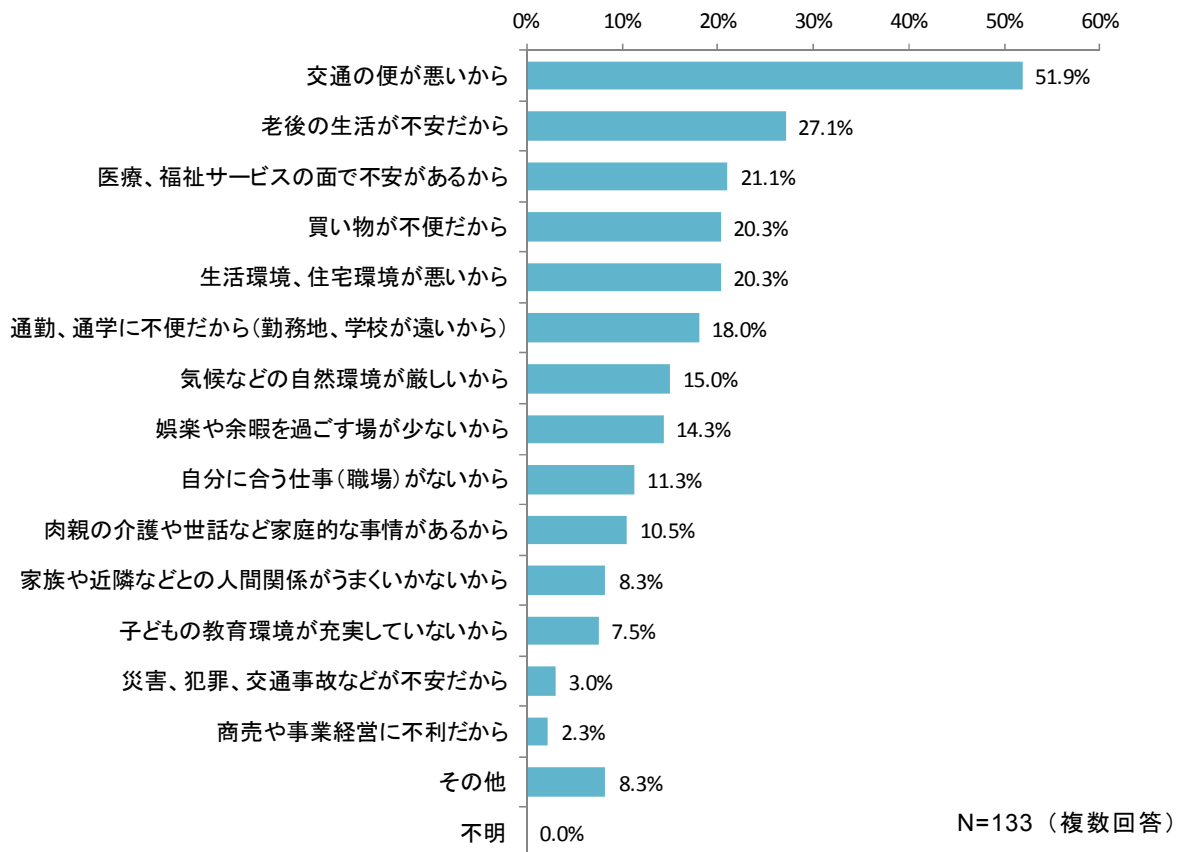
N=876

市外に引っ越したい理由

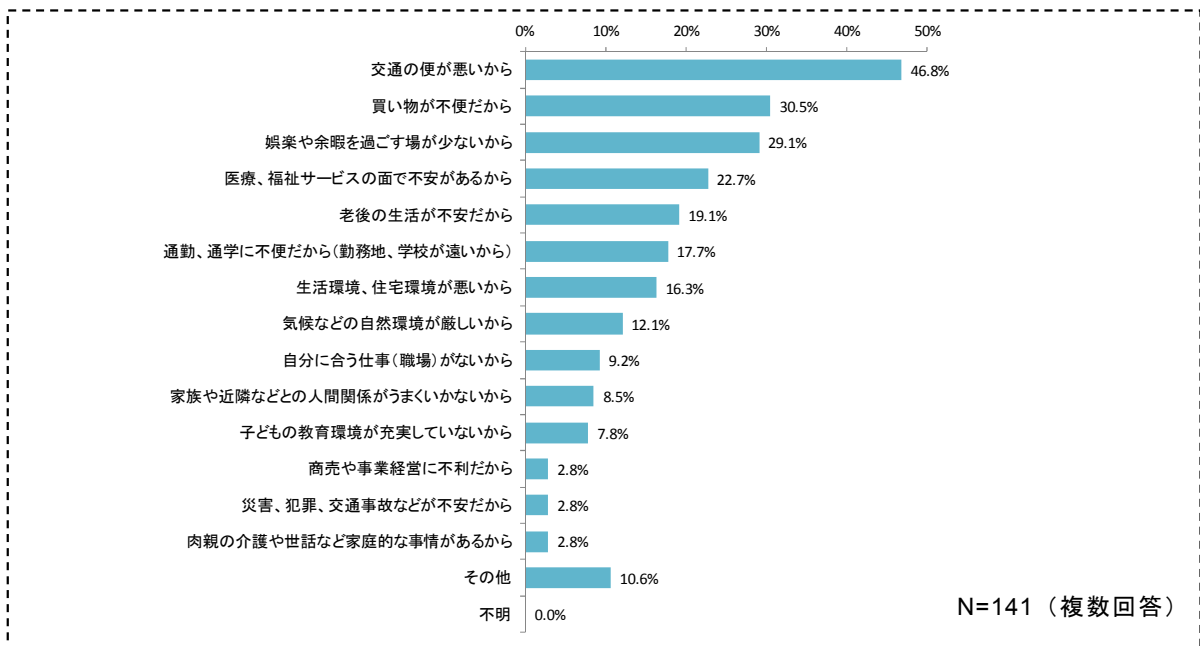
市外に引っ越したい理由は、昨年と同じく「交通の便が悪いから」が最も多く、昨年と比べて+5.1%の51.9%であった。

「老後の生活が不安だから」は昨年と比べ+8.0%の27.1%、「肉親の介護や世話など家庭的な事情があるから」は+7.7%の10.5%に増加した。

また、「買い物が不便だから」は昨年と比べ-10.2%の20.3%、「娯楽や余暇を過ごす場が少ないから」は-14.8%の14.3%に減少した。



【前回の市民意識調査(平成29年2月)】



問4 燕市のまちづくりに対するあなたの満足度と重要度をおたずねします。

満足度と重要度の関係

市民のまちづくりに対する満足度、重要度について指数化し、相関関係を4象限で表した。数値が高いほど、満足度、重要度とも高い。

満足度が高い施策は「市民の健康づくり」、重要度が高い施策は「医療体制」である。一方、満足度が低い施策は「道路環境」、重要度が低い施策は「生涯学習、芸術文化活動」であった。「道路環境」の満足度は昨年の-0.39から-1.0へと大幅に後退した。

□ 指数の算出について

✓ 満足度指数は各項目の回答を、「満足」：2点、「どちらかと言えば満足」：1点、「わからない」：0点、「どちらかと言えば不満」：-1点、「不満」：-2点として、当該施策に対する有効回答者数の合計で除した。

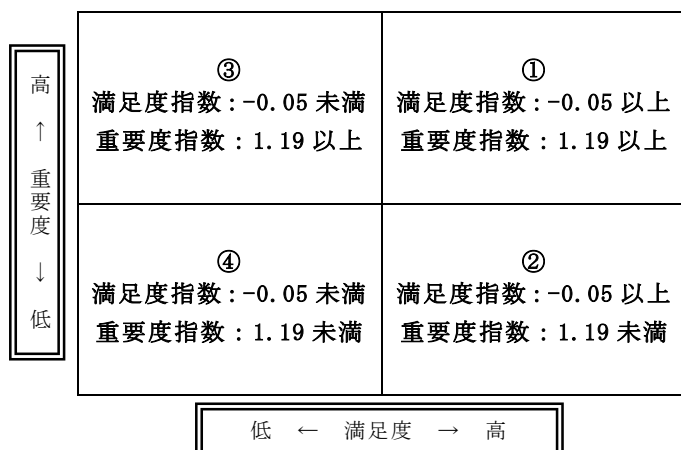
(例)「地場産業の振興」について、58人は「満足」、277人は「どちらかと言えば満足」、241人は「わからない」、128人は「どちらかと言えば不満」、36人は「不満」と回答した。有効回答者数は779人中740人である。この場合、満足度指数は…

$(58人 \times 2点 + 277人 \times 1点 + 241人 \times 0点 + 128人 \times -1点 + 36人 \times -2点) \div 740人 = \underline{\text{約} 0.26}$

✓ 重要度指数は各項目の回答を、「重要」：2点、「やや重要」：1点、「あまり重要ではない」：-1点、「重要ではない」：-2点として、その施策に対する有効回答者数の合計で除した。

✓ 図の原点は各指数の平均（満足度：-0.05、重要度：1.19）となっている。

■ 図の見方



①満足度も重要度も高い施策

満足度を低下させないために、現在の水準を維持・向上させることが求められる可能性のある施策。

②満足度は高いものの重要度は低い施策

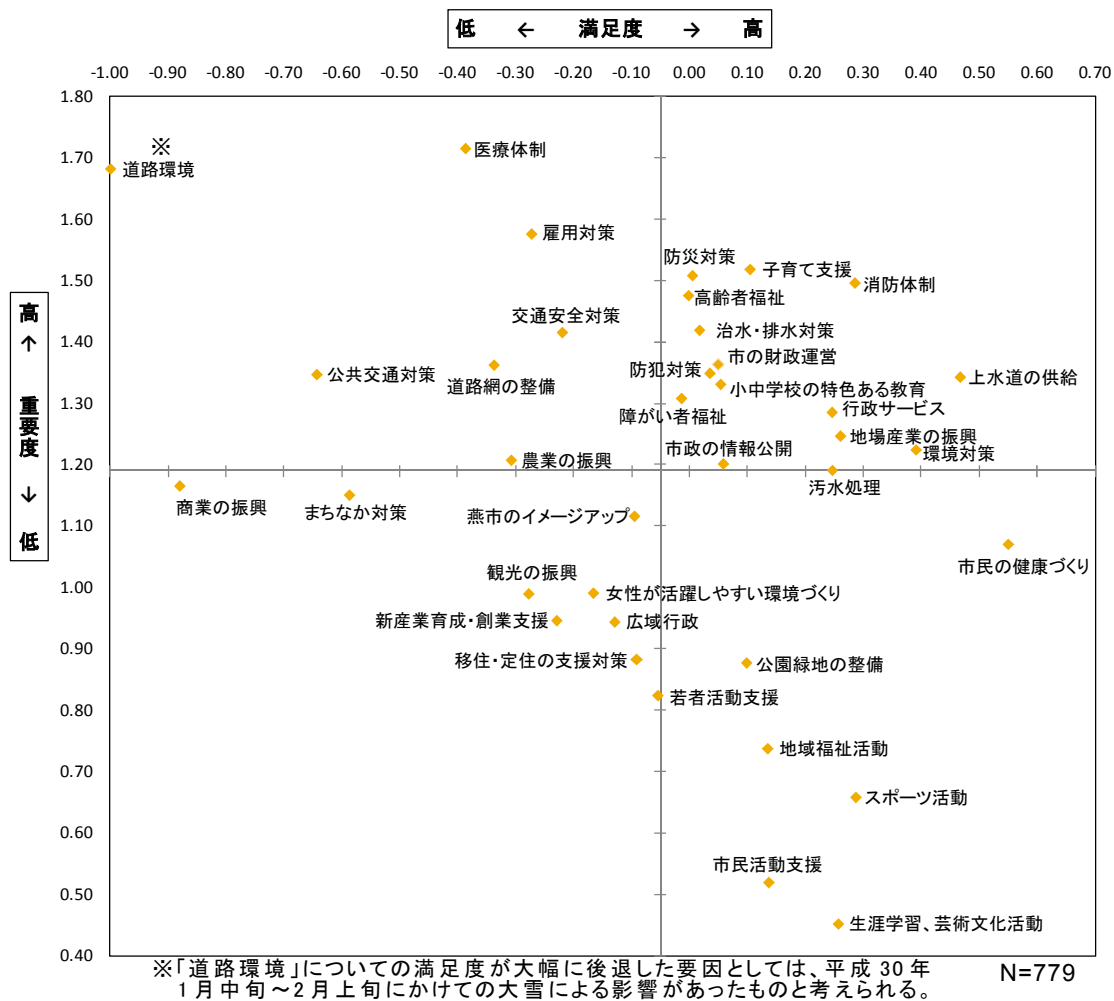
当該施策の社会的意義や法律的な義務付け等への配慮は必要であるものの、財政状況によっては見直しを行う可能性のある施策。

③満足度が低く重要度が高い施策

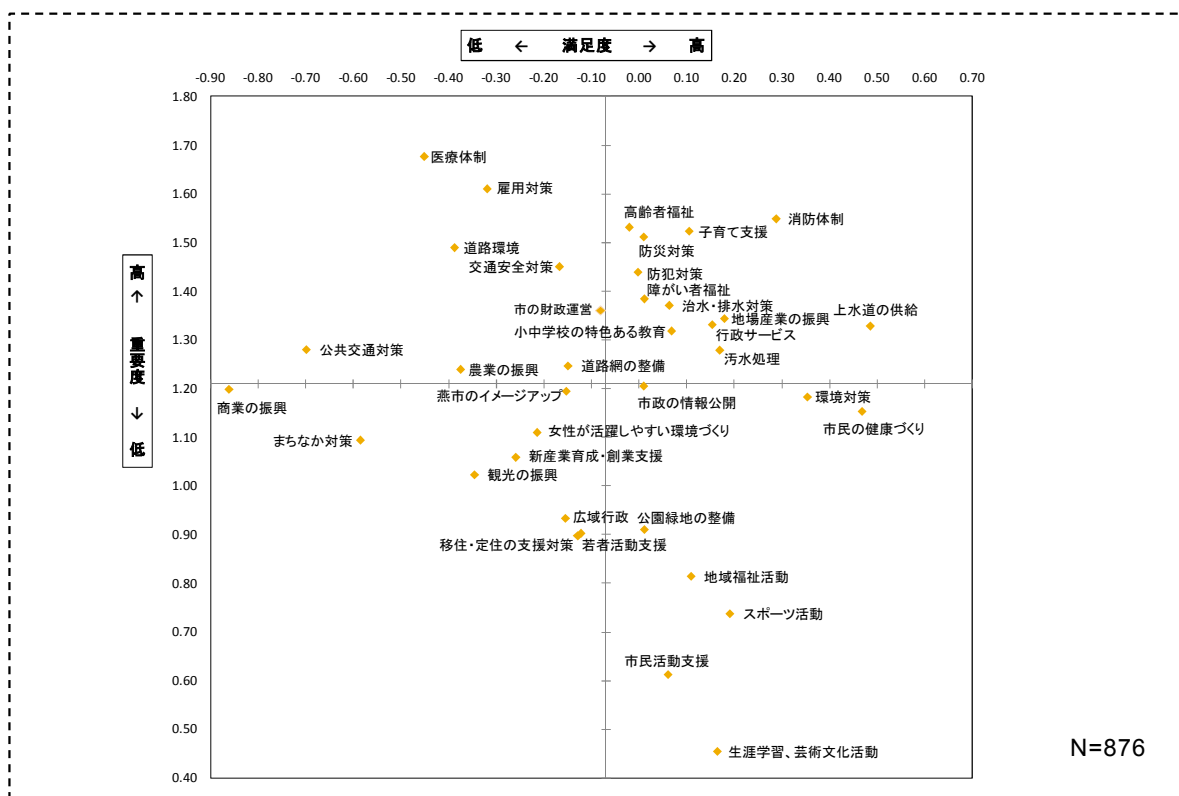
住民の期待に対して十分対応できていない施策であることから、住民満足度を向上するために最も優先して取り組まなければならない可能性のある施策。

④満足度も重要度も低い施策

重要度（住民の期待）が低いため、満足度を上げるための対策は必ずしも緊急ではない可能性のある施策。

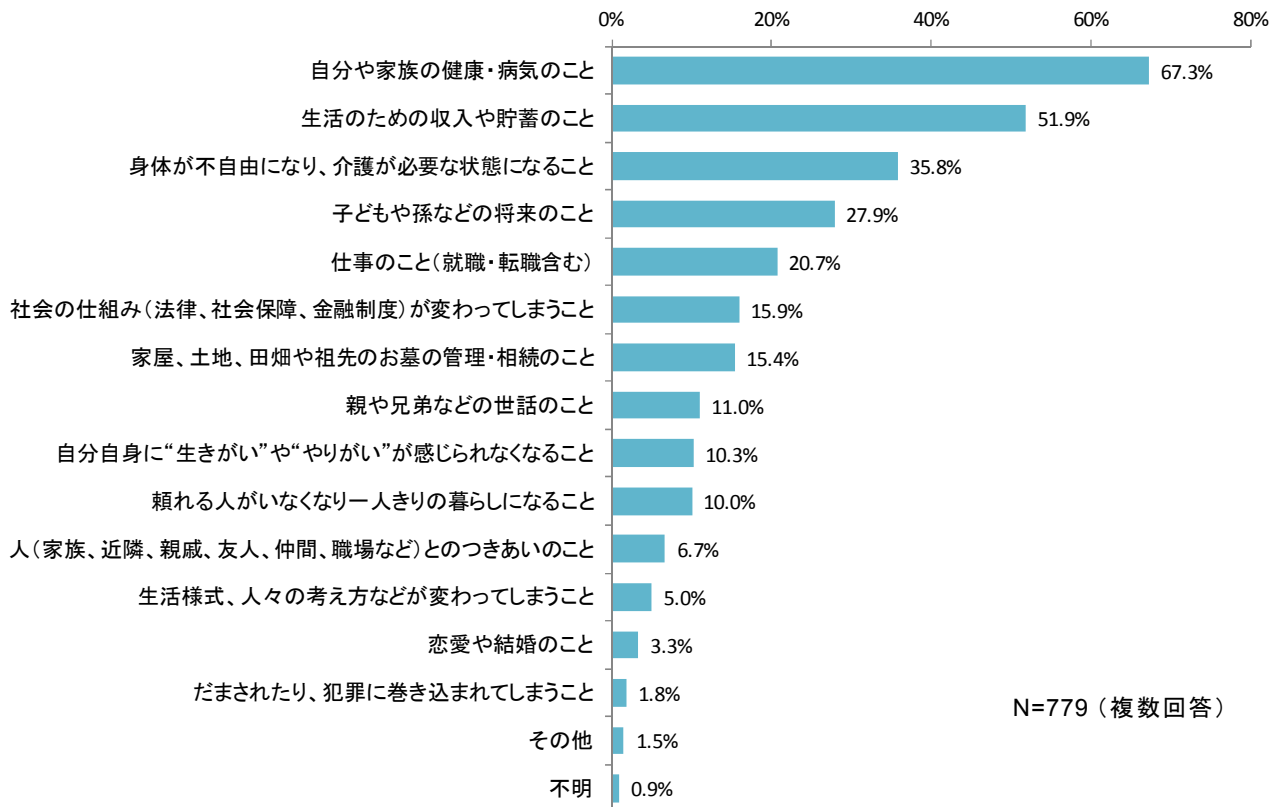


【前回の市民意識調査(平成29年2月)】

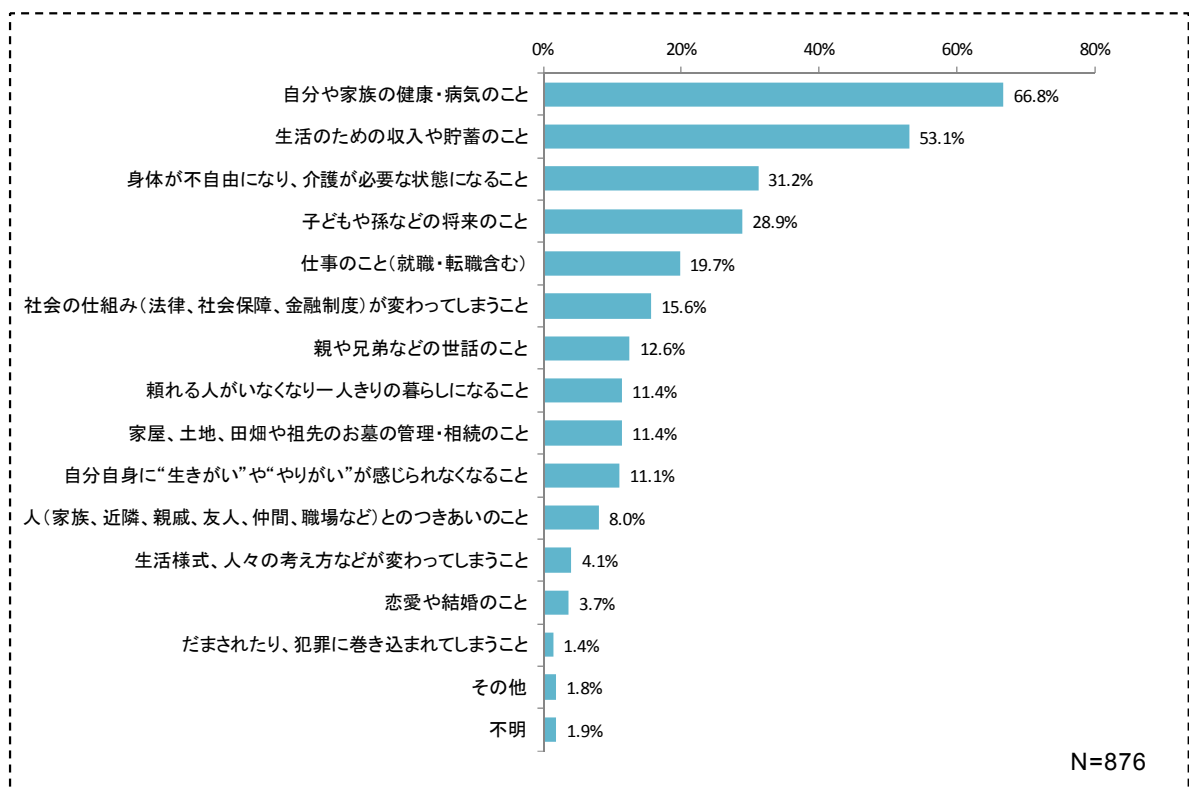


問5 あなたは将来5年後、10年後にどのような悩みや不安を感じますか。

将来5年後、10年後の悩みや不安は、「自分や家族の健康・病気のこと」が67.3%で、次いで「生活のための収入や貯蓄のこと」が51.9%、「身体が不自由になり、介護が必要な状態になること」が35.8%となっている。上位6位までは昨年と順位に変化はない。

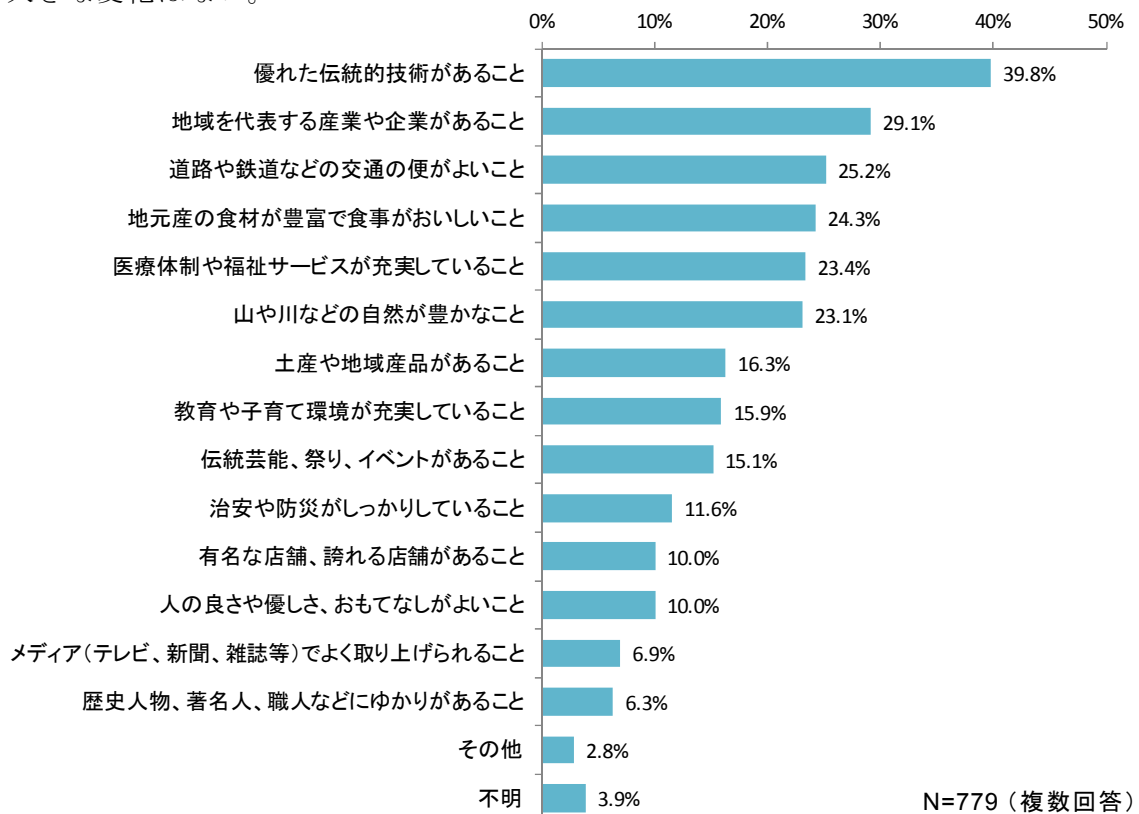


【前回の市民意識調査(平成29年2月)】

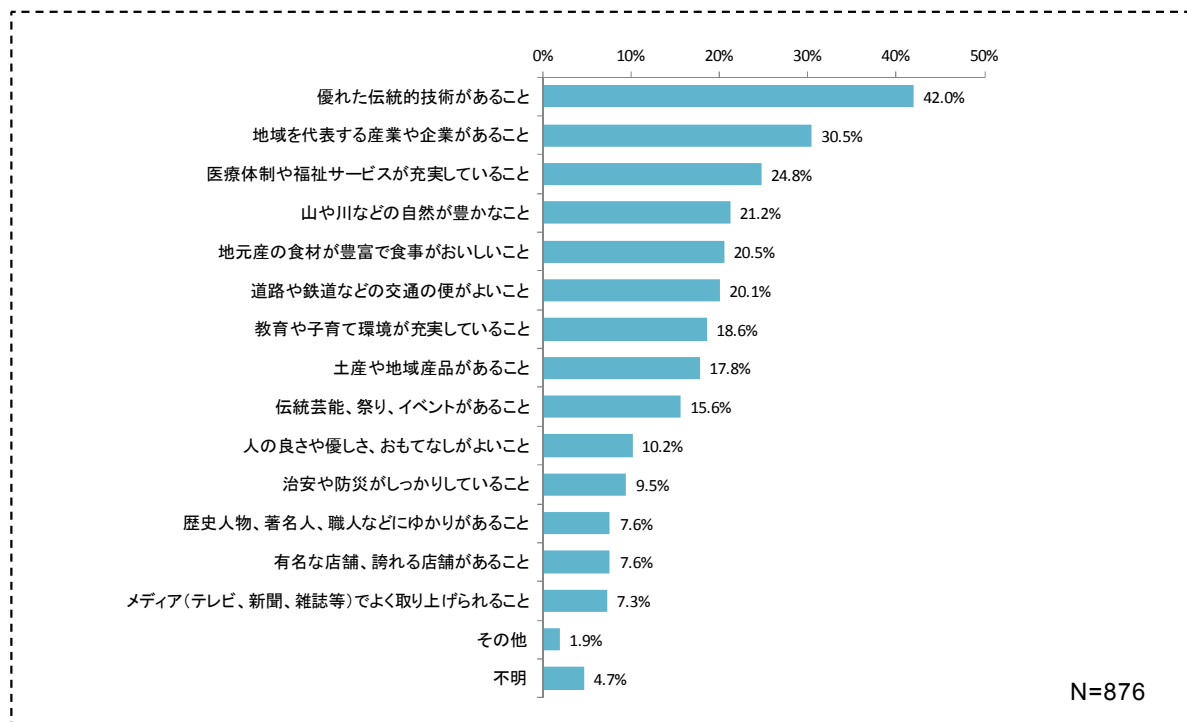


問6 地方創生の時代と言われているなか、地域の特色や資源を活かしたまちづくりが求められています。そんな中で燕市に住む人や訪れる人を増やすために活かすべき特色や資源、魅力や自慢できることは何だと思いませんか。

燕市が活かすべき特色や資源、魅力や自慢できることは、「優れた伝統的技術があること」が39.8%で、次いで「地域を代表する産業や企業があること」が29.1%、「道路や鉄道などの交通の便がよいこと」が25.2%となっている。昨年と比較して、数値に大きな変化はない。



【前回の市民意識調査(平成29年2月)】



※問6で○印を付けたうち、特色や資源、魅力や自慢できる具体的なこと。

〔食品〕

合計3種 16件

産品名	件数
ラーメン	9
農産物	6
もとまちきゅうり	1

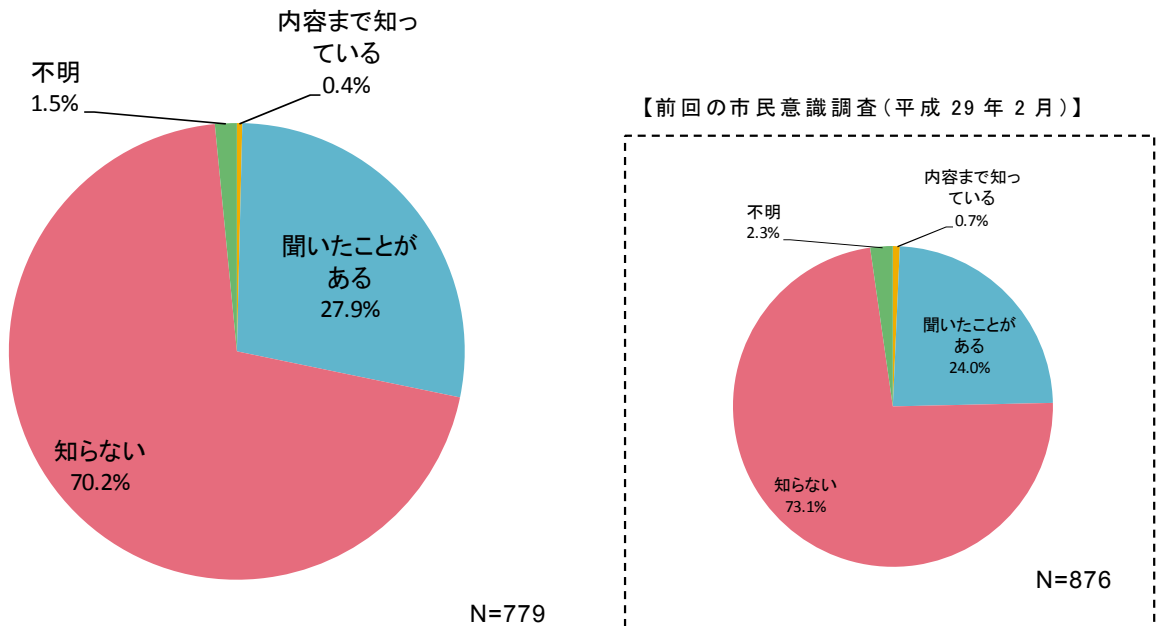
〔食品以外〕

合計25種 116件

産品名	件数
金属洋食器	27
金属加工技術	24
交通アクセス	8
おいらん道中	7
自然	6
住みやすさ	5
鍛起銅器	5
ハウスウェア	5
大河津分水	3
まつり、イベント	3
海が近い	2
国上山	2
災害が少ない	2
桜	2
人柄	2
弥彦山が近い	2
歴史・文化	2
鳥	2
アウトドア	1
医療体制	1
警察官	1
長善館	1
著名人	1
つばめっ子かるた	1
ものづくり	1

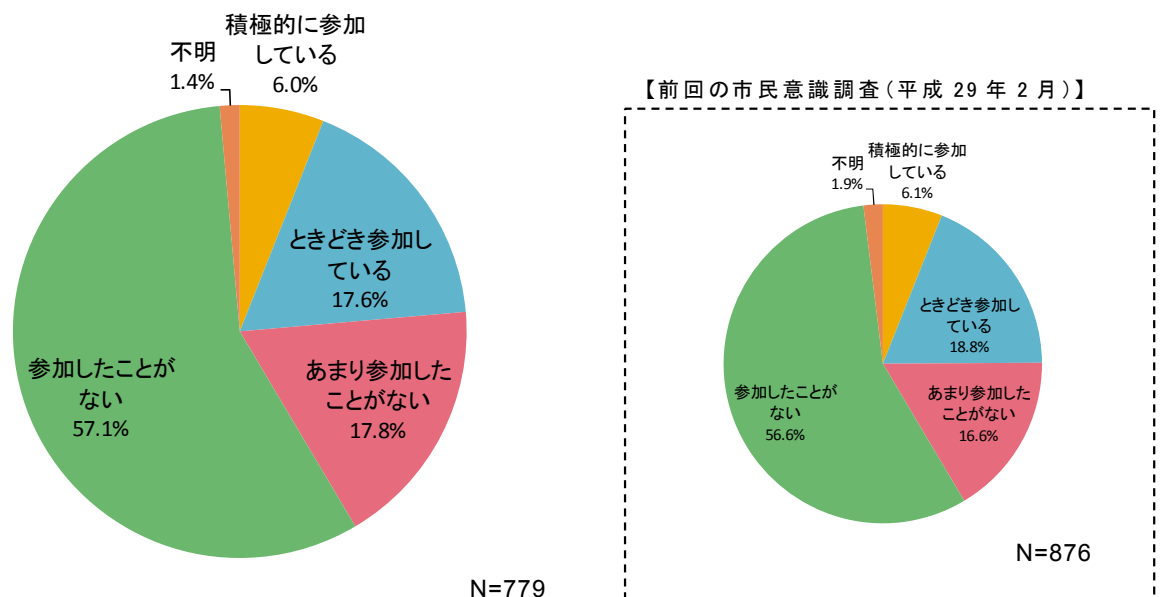
問7 あなたは、市民一人ひとりがまちづくりの主人公であるという基本理念のもと制定された「燕市まちづくり基本条例」を知っていますか。

「燕市まちづくり基本条例」の認知状況は、「内容まで知っている」が0.4%、「聞いたことがある」が27.9%で、その合計が28.3%に対し、「知らない」が70.2%と大きく上回っている。認知度は低い状況となっているものの、昨年より3.6%増えている。



問8 あなたは、最近、自治会やまちづくり協議会、NPO（民間非営利組織）、ボランティア組織、各種団体などの活動に、どの程度参加していますか。

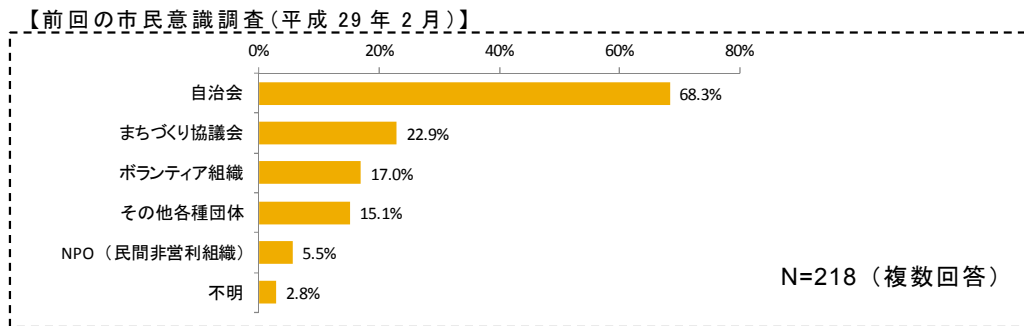
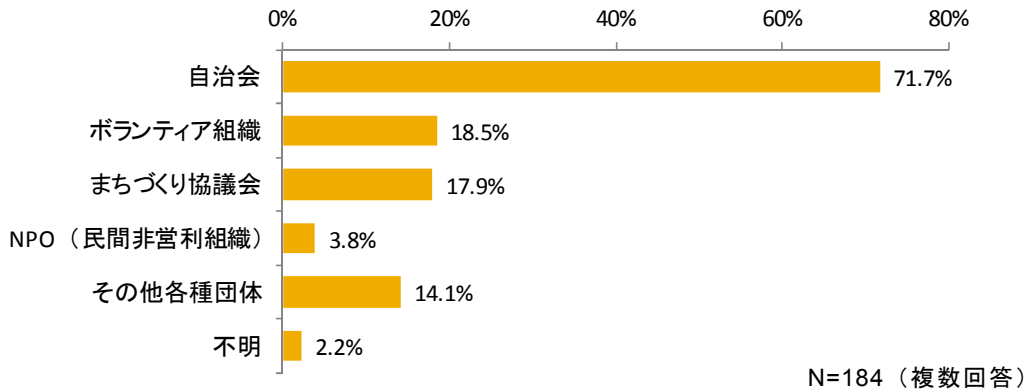
自治会や各種団体への参加は、「積極的に参加している」が6.0%、「ときどき参加している」が17.6%に対し、「あまり参加したことがない」が17.8%、「参加したことがない」が57.1%となっており、自治会、各種団体への参加が進んでいない状況となっている。



問9 参加したことがある団体の活動について

[問8で「積極的に参加している」「ときどき参加している」を回答した方限定]

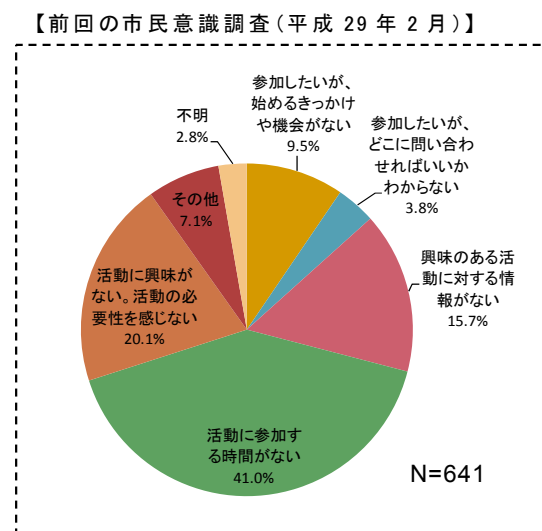
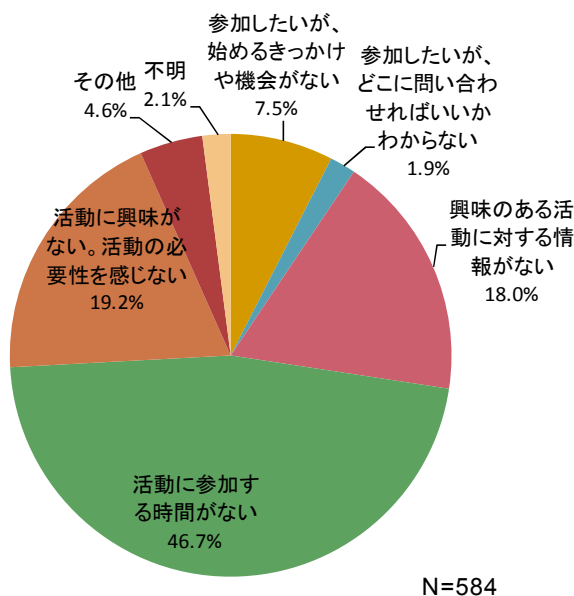
参加したことがある団体活動については、「自治会」が最も多く71.7%、次いで「ボランティア組織」が18.5%、「まちづくり協議会」が17.9%となっている。



問10 参加したことがない理由について

[問8で「あまり参加したことがない」「参加したことがない」を回答した方限定]

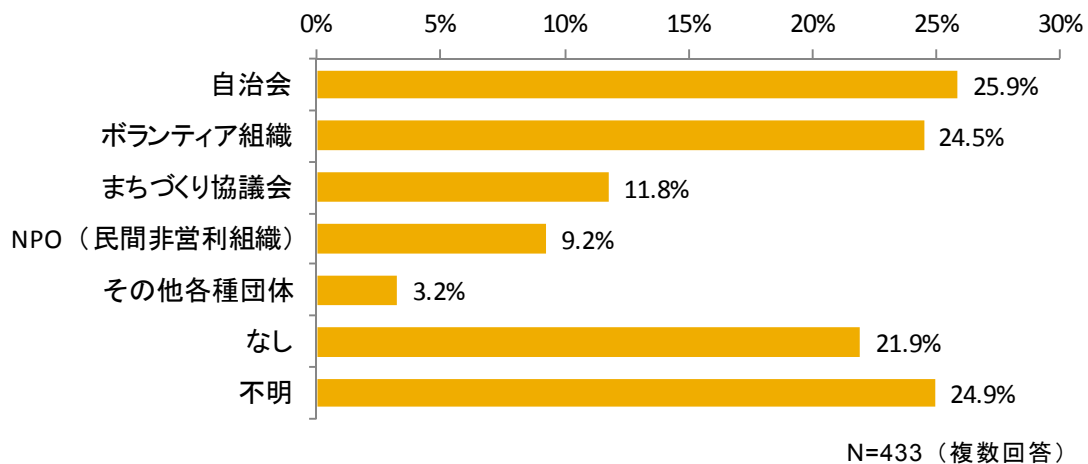
約3割の方々が「参加したいが、始めるきっかけや機会がない」「参加したいが、どこに問い合わせればいいのかわからない」「興味のある活動に対する情報がない」と回答しており、潜在的な活動意欲を活かしきれていない状況となっている。



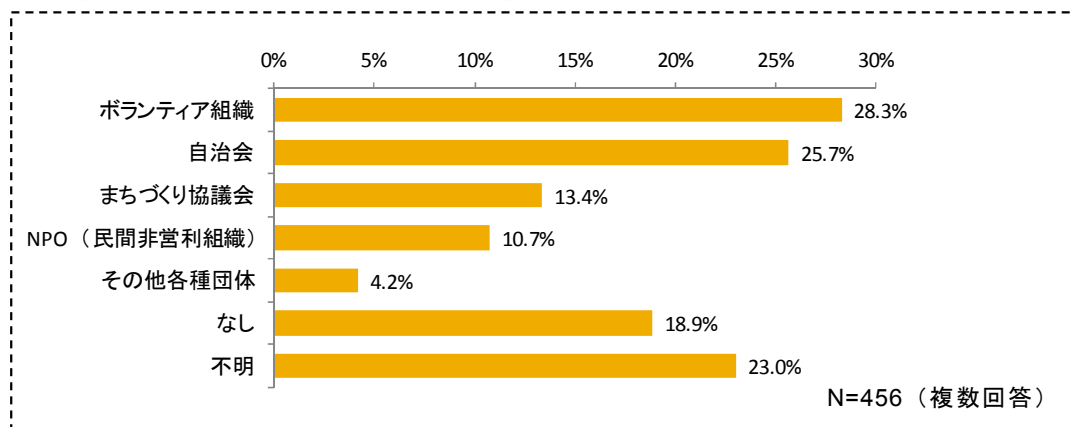
問11 あなたが参加できるとすればどの団体の活動ですか。

[問10で「参加したいが、始めるきっかけや機会がない」「参加したいが、どこに問い合わせればいいかわからない」「興味のある活動に対する情報がない」「活動に参加する時間がない」を回答した方限定]

活動に参加できる団体活動は、「自治会」が最も多く 25.9%、次いで「ボランティア組織」が 24.5%、「まちづくり協議会」が 11.8%となっている。

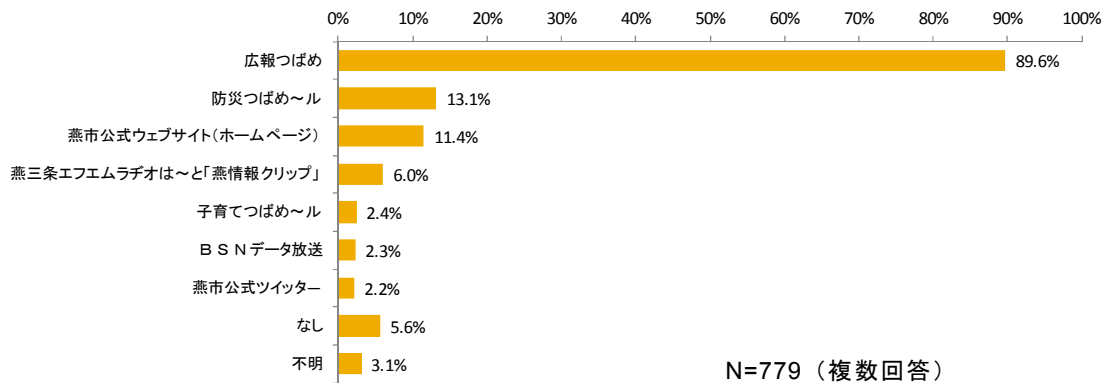


【前回の市民意識調査(平成 29 年 2 月)】

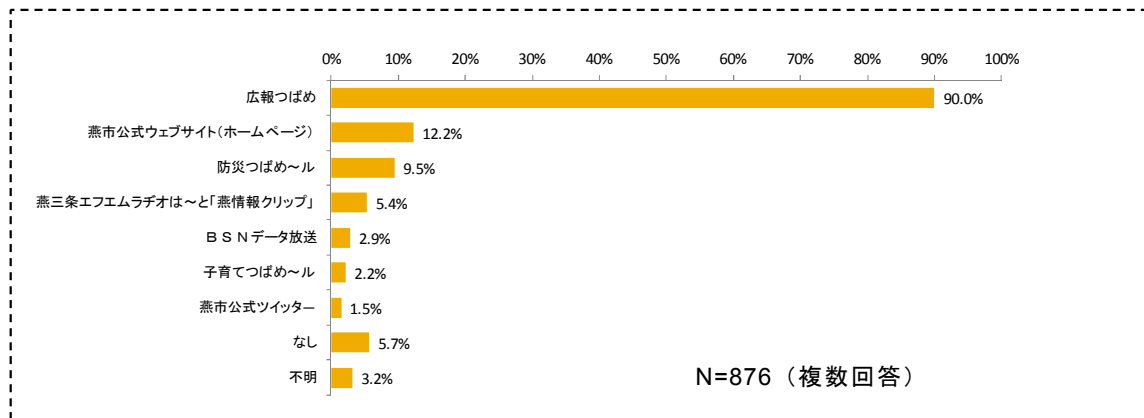


問12 あなたは、燕市が情報発信を行っているどの情報媒体を利用（読む／みる／聴く）していますか。

利用している情報媒体については、「広報つばめ」が最も多く 89.6%、次いで「防災つばめ〜ル」が 13.1%、「燕市公式ウェブサイト（ホームページ）」が 11.4%となっている。つばめ〜ルの登録者数は増加傾向にあり、燕市公式ウェブサイトの閲覧数は減少傾向にあるため、それがアンケート結果に現れている。



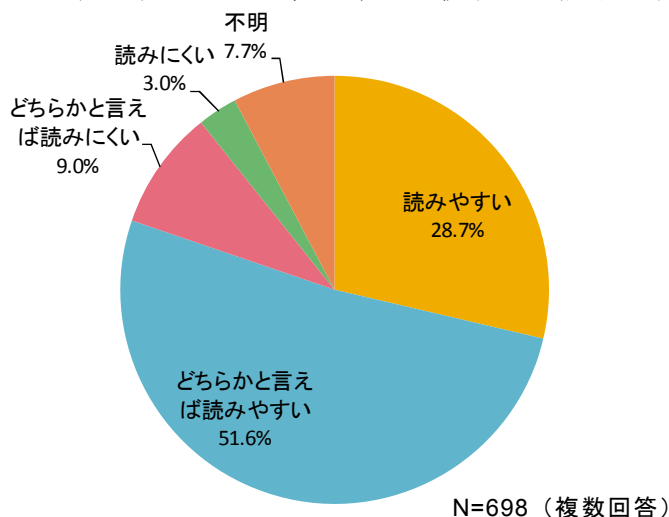
【前回の市民意識調査(平成 29 年 2 月)】



広報つばめについての読みやすさ

[問 12 で「広報つばめ」と回答した方限定]

広報つばめの読みやすさは、「読みやすい」、「どちらかと言えば読みやすい」で約 8 割を占めており、昨年と比較すると読みやすいと感じている方が微増した。



【前回の市民意識調査(平成 29 年 2 月)】

